

## Logical Structures of Comparative Sentences and Metaphor Sentences in Chinese

Yu Fei

Keywords: Comparative Sentence, Metaphor Sentence, Formal Semantics, Sentence Meanings, Logical Structure.

### Abstract

In Chinese, comparative expressions have both meanings of “Contrast” and “Metaphor”. Using the framework of formal semantics, this paper explains the similarities and differences between “Comparative Sentences” and “Metaphor Sentences” from the semantic viewpoint based on previous studies. Through the analysis of comparative sentences and the metaphor sentences of ancient Chinese and modern Chinese, I present the conclusion that the two types of sentences from the different times have the same logical structure.



# 中国語における「比較構文」と「比喩構文」の比較研究

北京師範大学文学院博士後（Postdoctoral）  
于 飛

要旨 中国語における「比較表現」の文型は「比較」を表すことができ、また「比喩」を表すこともできる。本稿は先人の研究を踏まえ、形式意味論の手法により、「比較構文」と「比喩構文」の文型意味と論理構造から両者の共通点と相違点について論じる。

キーワード：比較構文 比喩構文 形式意味論 文型意味 論理構造

## 1. はじめに

### 1.1 本研究の目的

自然世界や人類社会において、存在している客観的事物および人間の頭で思い浮かべた抽象的な概念はその数量、状態や性質などは必ず異なるものである。人々はこの違いを認識し、区別するために、それらの事物を比較する必要がある。従って、「比較」は人間にとって極めて重要かつ基本的な方法であるだけでなく、客観世界を認識する過程においても共有すべき考え方とも言える。この「比較」という考え方が言語領域に反映すると、言語研究における「比較範疇」といわれるものになり、そして、

それは文法研究におけるいわゆる「比較構文」である。

世界中のいずれの言語においても、必ず「比較」という概念が存在している。言語学者 L. Stassen (1985) は「比較構造は述語の量級において二つの事物の分級位置を確定する機能を賦与する構造である」と述べている。さらに、「比較 (comparison)」は言語において、最も重要な意味範疇のひとつであり、事物の特殊性を浮かびあがらせる表現式であることをも指摘した。この「比較」という意味範疇を具体的な統語構造で表わしたものが「比較構文」である。

“比喩”は「たとえる」ことである。すなわち、物事を説明するとき、相手のよく知っている物事を借用し、それになぞらえて表現することである。比較構文は修辞上の比喩と異なり、事物の間の程度、数量と性状などの異同あるいは優劣について客観的に論述し、陳述文を作る。比喩構文は一般的に二つの事物の比較を行い、説明を中心とする。それは主観性がきわめて強く、説明文に属する。しかし、この両者は文型が似ており、さらに同じ形式標識を用いるため、自然言語においては区別しにくい。

## 1.2 研究方法

中日両言語における比較構文に対する研究の方法は多様である。主な方法は統語構造と語用論的意味からの研究をメインとしている。しかし、明示的に文の意味を解明するためには、より論理的な研究方法、たとえば、形式意味論が必要だと考えられる。

本研究は「論理構造」についての基本的な表記上の知識や概念を導入する。その上で比較構文について、それぞれの具体例を述語論理を援用し、意味分析の過程を明示的に記述するとともに「比較構文」と「比喩構文」の論理構造と文型意味を解明するための記述の一般化を図る。述語論理表記は一見、単純におもえるが、実際は複雑な約束がある。関数の位置に生

起する動詞は「その動詞により表される動作・行為をしている個体の集合」と解釈され、その結果直後にくる「項で表された個体」と同質のものとして、いわば「計算」の基礎を作っているのである。自明のことであるが「動作・行為」そのものでは「個体」と質が異なるが、「個体の集合」は「個体」という点で個体と同質だからである。

それ以外、本研究はタイプ理論を用いた分析方法と論理式の成立のプロセスを有限オートマトンと順序論理回路を用いた分析方法で明らかにする。

## 2. 先行研究

中国語における比較構文の文型は比較を表すことができ、また比喩を表すこともできる。この両者のちがいについて、研究者たちは以下のように論じた。

呂叔湘氏（1942）は比喩構文は比較構文の下位類であると考えている。

朱德熙氏（1982）は「跟…一样」の文型は比較と比喩の両方の意味を表すということを指摘した。この両者のちがいはアクセントにより表現される。比較を表す文型のアクセントは“一样”につける。比喩を表す文型のアクセントは“跟”の後ろの名詞につける。直接構成素は比較を表す文型は「(跟 + N) + 一样」であり、この述語部分は連述構造である。比喩を表す文型の構造は「跟 + (N + 一样)」であり、この述語部分の構造は述語目的語構造である。

(1) 这里的耗子和猫一样 (大)。(ここの鼠は猫のように大きい。)

朱德熙の分析によると、例 (1) は比喩構文であり、その構造は“(这里的耗子) {和 (猫一样)} + 大”である。ここの“和”は“像”に書き換えでき、“一样”は“似的”に書き換えできる。

(2) 屋子里头跟屋子外头一样 (冷)。(部屋の中は部屋の外と同じ寒さ

だ。)

朱德熙の分析では、例 (2) は比較構文であり、その構造は“(屋子里头) [跟屋子外头 + (一样) 冷]”である。ここの“跟”は“……と比較する”の意を表し、“……に似ている”の意を表す“像”に書き換えることができず、また“一样”も“似的”に書き換えられない。

殷志平氏 (1995) は「X 比 Y 还 W」の文型は比較構文と比喻構文の両方がある。その両者の特徴を有していると指摘した。さらに、その原因を以下の二つの面から解釈できるとした。

第一は、比較構文においては、この構造の Y は W が表示する性状と程度をもつ。なお、Y は W が表示する [性状]・[程度] のある位置を占める。比喻構文においては、特定の言語環境の中で、Y は最上級の [性状]・[程度] をもち、W が表示する [性状]・[程度] の両極端に位置する。よってつねに、Y は X を超えるということである。

第二は、“X”と“Y”の関係からみると、比較構文の“X”と“Y”の比較は現物であり、比喻構文の“X”と“Y”の比較は現物ではなく、たとえた事物との比較である。まず、以下の比較構文の用例を見られたい。

(3) 山东队比河南队还快。(山東のチームは河南のチームより速い。)

(4) 小张的孩子比小李的孩子还会哭。(張さんの子供は李さんの子供よりよく泣く。)

例 (3) と (4) は比較構文である。例 (3) の前提は“山东队跑得快(山東のチームは走りが速い)”であるが、最も“速い”ではない。なお、“山东队跑得快”と“河南队跑得快”の両者の比較は客観的に比較性があるものである。例 (4) の前提は“小李的孩子会哭(李さんの子供は泣ける)”であるが、最も“泣ける”ではない。なお、“小张的孩子会哭”と“小李的孩子会哭”の両者の比較は客観的に比較性があるものである。

次に、比喻構文の用例を見られたい。

(5) 我们的大“蜻蜓”仿佛比飞机还飞得高。(我々の“トンボ”はまるで飛行機より高く飛んだみたい。)

(6) 他比眼镜蛇还毒。(彼はコブラよりもっと有毒だ。)

例(5)と(6)は比喩構文である。(5)の前提は「飞机飞得最高(飛行機が一番高く飛んだ)」である。一般的な状況において、飛行機と凤と比較すれば、必ず飛行機の方が高く飛んだはずである。話者は「我们的大“蜻蜓”仿佛比飞机还飞得高。(我々の“トンボ”はまるで飛行機より高く飛んだみたいだ。)」と言う文は事実とはかけ離れ、非客観的に凤と飛行機を比較し、誇張法を用いて凤が飛んだ高さを説明する。(6)の前提は「眼镜蛇最毒(コブラが一番有毒だ)」である。この文について、YはWで性質を持つが、XはWの性質を持たない。さらに、XとYも比較できるものではない。話者は「X比Y还W」の文型を用い、Yの性質を利用してXの性質を説明し、かつXはYを超えているということが分かる。この用法は話者の感情を表すためである。

陆俭明氏(1980)は比較の結果を表す“还”と“更”が比較と比喩を表示する機能をもつことについて論じた。“更”は比較を表す以外、「漸進」と「三者の比較」を表すこともできるとし、一方、“还”はこのような機能を持たないが、比喩を表すことができると述べた。

(7) 长江比黄河长, (长江) 比淮河就更长了。(长江は黄河より長く、淮河よりもっと長い。)

“更”を用いる例(7)は比較構文である。ここの“更”は“还”に書き換えることができず。この文の比較対象は“长江”、“黄河”と“淮河”の三つある。この三者は“长江>黄河>淮河”の「漸進」の関係である。

(8) 那条蛇比碗口还粗。(あの蛇は茶碗の口より太い。)

“还”を用いる例(8)は比喩構文である。ここの“还”は“更”に書き換えることができない。

刘大为(2004)は「比較は論理的な操作である。比喩は言語行為を表す表現であり、厳密にいうと文全体が一種の言語行為を表す。この両者は同等に考えられない。」と考えている。また、「比喩」に対して、「比較の関係」を含んでいるとした。もし「比較の関係」が存在していなければ、「比喩」の本体と客体の間の類似点が確定できないからである。「比較」と「比喩」はどちらも類似点を持つ対象に対して行われている。従って、「比較」と「比喩」には一致性があり、時に区別できない場合もある。特に、「平等比較」の場合において「比較」と「比喩」はしばしば同じ表現になるから、区別しにくい。

王丽(2005)は「まず「比較」と「比喩」の定義から、両者のちがいをよく理解する方がいい」と述べている。つまり、「比較」は思惟の方式であり、「比喩」は修辞の方式であると説明している。

张厚军(2010)は結果項の意味性から、比較構文と比喩構文を区別する基準の二点をまとめた。

一つの基準は「結果項の具体性」である。結果項が具体性を持たないか、あるいは具体的ではない文は比較構文である。結果項がはっきりしている、あるいは曖昧性を与える文は比喩構文であると見なした。そして、比喩構文と比較構文を具体的な用例を取り上げ説明した。

まず、比喩構文の用例は以下ようになる。

- (9) 手如柔荑, 膚如凝脂, 領如蝤蛴, 齒如瓠犀。(手は柔荑<sup>1)</sup>の如く、  
 膚は凝脂<sup>2)</sup>の如く、領は蝤蛴<sup>3)</sup>の如く、齒は瓠犀<sup>4)</sup>の如く。5)

(『诗经·卫风·硕人』)

- (10) 自在飛花輕似夢, 無邊絲雨細如愁。(自在な舞う花はまるで夢のように降りつづき、細かい雨はまるで憂いのように細い。)(秦观『浣溪沙』)

例(9)、(10)は比喩構文である。例(9)は“柔荑”、“凝脂”、“蝤蛴”、



“瓠犀”を用いて、女性の“手”、“皮膚”、“頰”、“齒”のなまめかしさや感覚を具体的に表現し、例(10)は“夢”と“愁”を用いて、“飛花”と“絲雨”の状態を具体的に表現しているのも、比喩構文である。

次に、比較構文の用例をとりあげた。

- (11) 布价如往年的价钱一般。(布の値段は以前の価格と一緒だ。)(『老乞大』)
- (12) 得志犬猫强似虎, 失時鸞鳳不如雞。(志を持つ犬と猫は虎のようになり、権勢や勢力を失う鳳凰は鶏に及ばない。)(『醒世姻缘传』)

例(11)、(12)は比較構文に属する。

もう一つの基準は「結果項の客観的比較性」である。文中で二つの事物に言及し、その二者が「客観的な比較性」を持つものは比較構文であり、「客観的な比較性」を持たないものは比喩構文である。さらに、比喩構文の用例を取り上げ説明した。

- (13) 凡人心險于山川, 難于知天。(凡そ人心は山川よりも險しく、天を知るよりも難し。<sup>6)</sup>)(『庄子・列御寇』)
- (14) 露似珍珠月似弓。(露は真珠に似ているし、月は弓に似ている。)(白居易『暮江吟』)

例(13)、(14)は比喩構文である。その中の“人心”と“山川”・“天”、“露”と“珍珠”、“月”と“弓”は本質が異なる事物で、客観的な比較性を持たない。

次は、比較構文の用例である。

- (15) 相人多矣, 無如季相。(会った人はたくさんいるが、すべて(身分の高い)季丞相に及ばない。)(『汉书・高帝』)
- (16) 仰視見開孔如井大。(仰ぎ見ると、その穴は井戸のような大きさだ。)(『太平广记・旌异记』)

例(15)、(16)は比較構文である。その中の“相人(之貴)”と“季相(之貴)”、“開孔”と“井”は客観的な比較性を持つ。

実際、「比較」と「比喩」についての論述は古代漢語においてすでに存在する。秦の時代の思想家墨子はその著作『墨子』の中で「比較」と「比喩」について論じた。『墨子・経下』の中で「比較」について「損而不害, 説在余, 異類不□(比), 説在量。(能はずして害あらず、説は宜に在り。異類は比せず、説は量にあり。7)」と述べた。つまり、「種類が異なる事物は比較することができない」の意を指摘した。すなわち、比較は同じ種類の事物の間で行われる。

また、『墨子・小取』の中で「比喩」について、「辟也者, 挙業(他)物而以明之也。(辟とは、也物を挙げて以て之を明らかにするなり。8)」と述べた。この意味は「比較は異なる種類の事物の間で行うことに重きを置く」ことである。唐代の皇甫湜はまた「凡喩必以非類(凡そ比喩は必ず異なる種類を用いる)」といった見解を有している。さらに、銭鍾書は『管錐編』の中に「譬喩以不同類為類(比喩は違う種類を比較する)」と論述した。これからみると、「比喩」の最大の特徴は比喩の主体と客体は類別が異なるものであることが分かる。

八十年代から、比較構文と比喩構文の関係についての研究が多く展開されるようになった。この二者の区別について、たくさんの学者が「比較」と「比喩」は異なる言語運用であると認めた。この両者の関連性について、ある学者は「比較」と「比喩」は共通する部分を持つ、あるいは互いに重なる部分が存在すると考えた。従って、この両者は区別しにくいと判断したのである。

### 3. 「比較構文」と「比喩構文」の論理構造と文型意味

次に、古代中国語と現代中国語に分け、具体的な用例から「比較構文」と「比喩構文」の論理構造と文型意味を説明しよう。

#### 3.1 古代中国語における「比較構文」と「比喩構文」の論理構造と文型意味

- (17) 得志犬猫强似虎, 失時鸞鳳不如雞。(志を持つ犬と猫は虎のようになり、権勢や勢力を失う鳳凰は鶏に及ばない。)(『醒世姻缘传』)

この文の論理式は次のようになる。

- (17')  $\sim t$  アリ  $\sim ni$   $\sim ga$  アル  $\sim ni$   $\sim ga$   
 似' [得志犬猫, 虎, 有'(得志犬猫, [強 1]) & 有'(虎, [強 2])  
 アル  $\sim ga$   $\sim t$

$$a \quad \beta \quad \gamma 1$$

ヒク  $\sim kara$   $\sim ra$  ナル  $\sim ga$   $\sim ni$   
 & 有' {減' ([強1], [強2]), [差数]} & 到' ([差数], 零)  
 アル  $\sim ni$   $\sim ga$   $\sim t$ イウ状態ニ

$$\gamma 2 \quad \gamma 3$$

- $\sim t$  アリ  $\sim ni$   $\sim ga$  アル  $\sim ni$   $\sim ga$   
 如[失時鸞鳳, 雞, 有'(失時鸞鳳, [身价 1]) & 有'(雞, [身价 2]) &  
 アル  $\sim ga$   $\sim t$

$$a \quad \beta \quad \gamma 1$$

- ヒク  $\sim kara$   $\sim ra$  ナル  $\sim ga$   $\sim ni$   
 有' {減' ([身价 1], [身价 2]), [差数]} & 到'<sup>9)</sup> ([差数], 零)  
 アル  $\sim ni$   $\sim ga$   $\sim t$ イウ状態ニ

$$\gamma 2$$

$$\gamma 3$$

例 (17) は比較構文であり、その論理式は (17') である。(17') は「志を持つ犬と猫は虎のようになり、権勢や勢力を失う鳳凰は鶏に及ばない」という命題内容は論理式では「似' [得志犬猫, 虎, 有'(得志犬猫, [強

1]) & 有' (虎, [強 2]) & 有' {減' ([強 1], [強 2]), [差数]} & 到' ([差数], 零)]]と「如' [失時鸞鳳, 雞, 有' (失時鸞鳳, [身价 1]) & 有' (雞, [身价 2]) & 有' {減' ([身价 1], [身价 2]), [差数]} & 到'<sup>10)</sup> ([差数], 零)]」のように表示できる。次に、この論理式について詳しく説明する。「有' (得志犬猫, [強 1])」は「“得志犬猫” には [強 1] がある」の意を、「有' (虎, [強 2])」は「“虎” には [強 2] がある」の意を、「有' {減' ([強 1], [強 2]), [差数]} & 到' ([差数], 零)]」は「[強 1] から [強 2] を引いて差がゼロになる」の意を表す。そして、「有' (失時鸞鳳, [身价 1])」は「“失時鸞鳳” には [身价 1] がある」の意を、「有' (雞, [身价 2])」は「“雞” には [身价 2] がある」の意を、「有' {減' ([身价 1], [身价 2]), [差数]} & 到' ([差数], 零)]」は「[強 1] から [強 2] を引いて差がゼロにならない」の意を表すこの“到” は「成る」の意を表し、“-” は「否定」の意を表す。用例 (17) の意味は前述のすべての命題内容を含んでいる。さらに、 $\gamma 1$  は「得志犬猫」と「虎」、「失時鸞鳳」と「雞」が「経験者格」を、「強 1」と「強 2」、「身价 1」と「身价 2」が「対象格」を表すので、「格役割」を表示する。 $\gamma 2$  は減法で差があること、つまり「数量化」を表している。 $\gamma 3$  は差がないこと、言い換えれば「差がいくらかの量に達している」こと、つまり一種の「着点」を表している。

(18) 露似珍珠月似弓。(露は真珠に似ているし、月は弓に似ている。)

(白居易『暮江吟』)

この文の論理式は次のようになる。

(18)  $\sim\text{ト}$                    アリ    $\sim\text{ニ}$     $\sim\text{ガ}$            アル    $\sim\text{ニ}$     $\sim\text{ガ}$   
似' [露, 珍珠, 有' (露, [圓 1]) & 有' (珍珠, [圓 2])  
アル  $\sim\text{ガ}$   $\sim\text{ト}$

$\alpha$     $\beta$

$\gamma 1$

$\begin{matrix} \text{ヒク} & \sim\text{カラ} & \sim\text{ヲ} & \text{ナル} & \sim\text{ガ} & \sim\text{ニ} \\ \&\text{有}'\{\text{減}'([\text{圓}1], [\text{圓}2]), [\text{差数}]\} & \&\text{到}'([\text{差数}], \text{同級})] \\ \text{アル} & \sim\text{ニ} & \sim\text{ガ} & \sim\text{トイウ状態ニ} \end{matrix}$

$\gamma 2$

$\gamma 3$

$\begin{matrix} \sim\text{ト} & \text{アリ} & \sim\text{ニ} & \sim\text{ガ} & \text{アル} & \sim\text{ニ} & \sim\text{ガ} \\ \&\text{似}'[\text{月}, \text{弓}, \text{有}'(\text{月}, [\text{彎}1])] & \&\text{有}'(\text{弓}, [\text{彎}2]) & \& \\ \text{アル} & \sim\text{ガ} & \sim\text{ト} \end{matrix}$

$\alpha$

$\beta$

$\gamma 1$

$\begin{matrix} \text{ヒク} & \sim\text{カラ} & \sim\text{ヲ} & \text{ナル} & \sim\text{ガ} & \sim\text{ニ} \\ \&\text{有}'\{\text{減}'([\text{彎}1], [\text{彎}2]), [\text{差数}]\} & \&\text{到}'([\text{差数}], \text{同級})] \\ \text{アル} & \sim\text{ニ} & \sim\text{ガ} & \sim\text{トイウ状態ニ} \end{matrix}$

$\gamma 2$

$\gamma 3$

例(18)は比喩構文であり、その論理式は(18')である。(18')では「露は真珠に似ているし、月は弓に似ている」という命題内容は論理式では「似'[露, 珍珠, 有'(露, [圓1]) &有'(珍珠, [圓2]) &有' {減'([圓1], [圓2]), [差数]} &到'([差数], 同級)}]」と「似'[月, 弓, 有'(月, [彎1]) &有'(弓, [彎2]) &有' {減'([彎1], [彎2]), [差数]} &到'([差数], 同級)}]」ように表示できる。次に、この論理式について詳しく説明する。「有'(露, [圓1])」は「“露”には[圓1]がある」の意を、「有'(珍珠, [圓2])」は「“珍珠”には[圓2]がある」の意を、「有' {減'([圓1], [圓2]), [差数]} &到'([差数], 同級)}]」は「[圓1]から[圓2]を引いて差が“同級”になる」の意を表す。そして、「有'(月, [彎1])」は「“月”には[彎1]がある」の意を、「有'(弓, [彎2])」は「“弓”には[彎2]がある」の意を、「有' {減'([彎1], [彎2]), [差数]} &到'([差数], 同級)}]」は「[彎1]から[彎2]を引いて差が“同級”になる」の意を表す。ここの“到”は「成る」の意を表す。用例(18)の意味は前述のすべての命題内容を含んでいる。さらに、 $\gamma 1$ は「露」と「珍珠」、「月」と「弓」が「経験者格」を、「圓1」と「圓2」、「彎1」と「彎2」が「対象格」を表すので、「格役割」を表示する。 $\gamma 2$

は減法で差があること、つまり「数量化」を表している。γ 3 は実物の差ではなく、類似点の差がないこと、すなわち“同級”になる。言い換えれば「類似点の差がいくらかの量に達している」こと、つまり一種の「着点」を表している。

### 3.2 現代中国語における「比較構文」と「比喻構文」の論理構造と文型意味

- (19) 这种苹果跟那种(苹果)一样甜。(このリンゴはあのリンゴと同じ甘さを持っている。) (朱德熙 1982)

この文の論理式は次のようになる。

- (19') 跟<sup>アル</sup>[这种苹果<sup>~ト</sup>, 那种(苹果)<sup>~ガ</sup>, 有'(这种苹果, [甜 1])&有'(那种(苹果),

$$\begin{array}{ccccccc}
 & & & \text{アリ} & \sim\text{ニ} & \sim\text{ガ} & \text{アル} & \sim\text{ニ} \\
 (19') & \text{跟}' & \text{这种苹果}, & \text{那种(苹果)}, & \text{有}' & \text{(这种苹果, [甜 1])} & \& \text{有}' & \text{(那种(苹果),} \\
 & \text{アル} & & \sim\text{ガ} & \sim\text{ト} & & & & & \\
 & & & & & & & & & & \\
 & & a & & \beta & & \gamma 1 & & & & \\
 & & \sim\text{ガ} & \text{ヒク} & \sim\text{カラ} & \sim\text{ヲ} & \text{ナル} & \sim\text{ガ} & \sim\text{ニ} & & \\
 & & \text{[甜 2]} & \& \text{有}' & \text{'減}' & \text{([甜 1], [甜 2]), [差数]} & \& \text{到}' & \text{([差数], 零)} & \\
 & & \text{アル} & & \sim\text{ニ} & \sim\text{ガ} & \sim\text{トイウ状態ニ} & & & & \\
 & & & & & & & & & & \\
 & & & \gamma 2 & & & \gamma 3 & & & & 
 \end{array}$$

例 (19) は比較構文であり、その論理式は (19') である。(19') は「このリンゴはあのリンゴと同じ甘さを持っている」という命題内容は論理式では「跟' [这种苹果, 那种(苹果), 有' (这种苹果, [甜 1]) & 有' (那种(苹果), [甜 2]) & 有' '減' ([甜 1], [甜 2]), [差数]} & 到' ([差数], 零)]」のように表示できる。次に、この論理式について詳しく説明する。「有' (这种苹果, [甜 1])」は「“这种苹果” には [甜 1] がある」の意を、「有' (那种(苹果), [甜 2])」は「“那种(苹果)” には [甜 2] がある」の意を、「有' '減' ([甜 1], [甜 2]), [差数]} & 到' ([差数], 零)」は「[甜 1] から [甜 2] を引いて差がゼロになる」の意を表す。ここの“到” は「成る」の意を表す。用例 (19) の意味は前述のすべての命題内

容を含んでいる。さらに、 $\gamma 1$ は「这种苹果」と「那种(苹果)」が「経験者格」を、「甜1」と「甜2」が「対象格」を表すので、「格役割」を表示する。 $\gamma 2$ は減法で差があること、つまり「数量化」を表している。 $\gamma 3$ は差がないこと、言い換えれば「差がいくらかの量に達している」こと、つまり一種の「着点」を表している。

(20) 脸跟纸一样白。(顔色は紙のように白い。)(朱德熙 1982)

	~ト	アリ	~ニ	~ガ	アル	~ニ	~ガ
(20)	跟'	[脸, 纸, 有'	(脸, [白1])	&有'	(纸, [白2])		
	アル	~ガ	~ト				
	$a$	$\beta$		$\gamma 1$			
		ヒク	~カラ	~ヲ		ナル	~ガ
	&有'	{減' ([白1], [白2]),	[差数]}	&到' ([差数], 同级)]			~ニ
	アル	~ニ	~ガ	~トイウ状態ニ			
		$\gamma 2$		$\gamma 3$			

例(20)は比喩構文であり、その論理式は(20')である。(20')では「顔色は紙のように白い」という命題内容は論理式では「跟' [脸, 纸, 有' (脸, [白1]) &有' (纸, [白2]) &有' {減' ([白1], [白2]), [差数]} &到' ([差数], 同级)]」のように表示できる。次に、この論理式について詳しく説明する。「有' (脸, [白1])」は「“脸”には[白1]がある」の意を、「有' (纸, [白2])」は「“纸”には[白2]がある」の意を、「有' {減' ([白1], [白2]), [差数]} &到' ([差数], 同级)」は「[白1]から[白2]を引いて差が“同级”になる」の意を表す。ここの“到”は「成る」の意を表す。用例(20)の意味は前述のすべての命題内容を含んでいる。さらに、 $\gamma 1$ は「脸」と「纸」が「経験者格」を、「白1」と「白2」が「対象格」を表すので、「格役割」を表示する。 $\gamma 2$ は減法で差があること、つまり「数量化」を表している。 $\gamma 3$ は実物の差ではなく、類似点

の差がないこと、すなわち“同級”になる。言い換えれば「類似点の差がいくらかの量に達している」こと、つまり一種の「着点」を表している。

#### 4. 比較構文と比喩構文の共通点と相違点

ここで、筆者は「比較構文」と「比喩構文」の論理構造から両者の関連性を述べることにする。

「比較構文」と「比喩構文」の用例の論理式の分析からみると、両者は同じ三項関数“ $P(a, \beta, \gamma)$ ”である。どちらも“ $a$ ガ $\beta$ ト $\gamma$ トイウ状態ニアル”の意を表す。これは「比較構文」と「比喩構文」の共通点と考えられる。

両者の相違点は「着点」を表す $\gamma$ 3項の違いである。比較構文は同じ種類の二者の間でその共有する特徴を比較するから、主体と客体は実物の差（“零”あるいは“多少”）を持っている。比喩構文は違う種類の二者の間でその類似点を比較するから、主体と客体は非実物の差（“同級”あるいは“超級”）を持っている。古代中国語と現代中国語の「比較構文」と「比喩構文」の用例の分析から見ると、時代は異なるが同じ論理構造で解析することができる。

#### 〈注〉

- 1) 蕡いは、茅（チガヤ）の葉より先に穂花を生じたもの。つばな。柔らかくて白いものの比喩となる。
- 2) 獸の固まった脂肪。白く、柔らかく、しかもつやがある。
- 3) 天牛（カミキリムシ）の幼虫。テッポウムシ。形態は白くてほっそりしている。
- 4) 瓠いは *Lagenaria siceraria* var. *clavata*. (ユウガオ)。ウリ科の一年草。一名、扁蒲・瓠瓜。瓠厚はユウガオの果実。細長い楕円形で、長さは六〇～九〇センチに達する。種子が潔白で整齊なので歯並びの美しさに例える。（『辞海』）



- 5) 『中国の古典 18・詩経（上）』加奈喜光訳（昭和五十七年）の日本語訳による。
- 6) 『中国の古典 5・荘子（上）』池田知久訳（昭和五十八年）の日本語訳による。
- 7) 『新釈漢文大系・第 51 卷・墨子（下）』（山田琢 明治書院 1987: 492-493）の日本語訳による。
- 8) 『新釈漢文大系・第 51 卷・墨子（下）』（山田琢 明治書院 1987）の日本語訳による。
- 9) “→到”は「“到”の否定形」の意を表す。

## 〈参考文献〉

- 方立 2000. 『逻辑语文学』北京语言大学出版社
- 刘大为 2004. 「“凡喻必以非类”、“同类作比即比较”的质疑与比喻理论的建构」『修辞学习』2004(2): 13-17
- 陆俭明 1980. 「“还”和“更”」北京大学汉语语言学研究中心『语言学论丛』编委会编『语言学论丛（第六辑）』商务印书馆 1980: 191-209
- 吕叔湘 1990[1942 初稿]. 『吕叔湘文集（第一卷）——中国文法要略』商务印书馆  
——1999[1980 初稿]. 『现代汉语八百词（增订本）』商务印书馆
- 朱德熙 1982. 『语法讲义』商务印书馆  
——1982. 「说“跟……一样”」『汉语学习』1982（1）  
——2003[1980 初稿]. 『现代汉语语法研究』商务印书馆
- 殷志平 1987. 「“比”字句浅论」『汉语学习』1987（4）: 3-5  
——1995. 「“X比Y还W”的两种功能」『中国语文』1995（2）: 241-254
- 张厚军 2010. 「试论比较和比喻的区别」『现代语文（语言研究）』2010（3）: 30-32
- 山田琢訳 1987. 『新釈漢文大系・第 50 卷・墨子（上）』明治書院
- 山田琢訳 1987. 『新釈漢文大系・第 51 卷・墨子（下）』明治書院
- 加奈喜光訳 昭和五十七年. 『中国の古典 18・詩経（上）』学習研究社
- 池田知久訳 昭和五十八年. 『中国の古典 5・荘子上』学習研究社
- L. Stassen. 1985 Comparison and Universal Grammar. Basil Blackwell